

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル:

東日本大震災後の福島の子どもたちとエコチル調査ができること

和文タイトル:

東日本大震災後の福島の子どもたちとエコチル調査ができること

ユニットセンター(UC)等名: 福島UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: とやま小児保健

年: 2012 月: 11 巻: 10

頁: 16-18

筆頭著者名: 橋本 浩一

所属UC名: 福島UC

目的:

東日本大震災、東京電力第一原子力発電所事故後のエコチル調査を通して福島の子どもたちへの「寄り添い」「見守り」について報告する。

方法:

福島で多くの方が抱えている不安は、「先の見えない原発の不安」、「子どもの健康被害の不安」、「風評による様々な影響に対する不安」などである。このような状況の中、福島の人々をいかに支えてゆくかが各方面に求められている。福島県では、東日本大震災前から開始されている「エコチル調査」と震災後、県民200万人を見守る「県民健康調査」の大きな二つの事業が展開されている。

結果:

エコチル調査に対する期待は震災直後からより高まり、調査対象地域外の妊産婦や県内医療機関からも全県下での実施を望む声があり、全県下で実施の予定である。これまでの課題として、「放射線障害への不安」、「単なる調査では受け入れられない」、「協力体制の確立」が挙げられ、エコチル調査では、適切なリスクコミュニケーション、支援体制の確立、如何に参加者に寄り添うか、参加者をはじめとして県民への十分な説明が求められた。

考察:(研究の限界を含める)

エコチル調査を通して、様々な不安を抱えている福島の子ども。家族に「寄り添い」「見守り」が重要である。

結論:

エコチル調査福島ユニットセンターでは、調査参加者の福島で産み育てることをお手伝いすることが最大の課題である。